

錫は小幅安も2万ドル維持

LME錫相場は5ドル安の2万50ドルと下落。小幅安も2万ドル水準は維持した。

鉛は小幅安で2千ドル割れ

LME鉛相場は1.5ドル安の1,998ドルと下落。後場で小幅安となり、2千ドル割れに。

亜鉛は中国貿易統計を控え下落

LME亜鉛相場は19.5ドル安の1,832ドルと下落。中国貿易統計を控え下落して引けた。

アルミは中国貿易統計を控え下落

LMEアルミ相場は11ドル安の1,835ドルと下落。中国の貿易統計発表を控え下落して引けた。在庫は減少も516万トン台割れにはならなかつた。

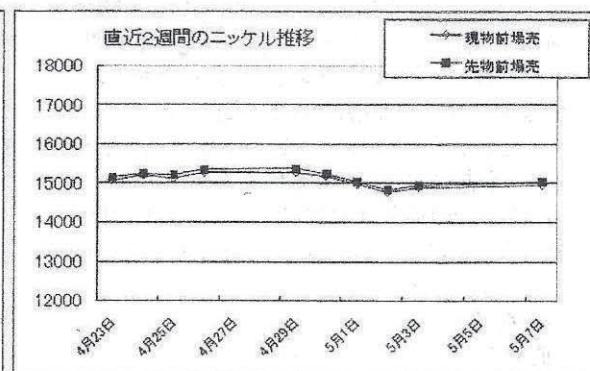
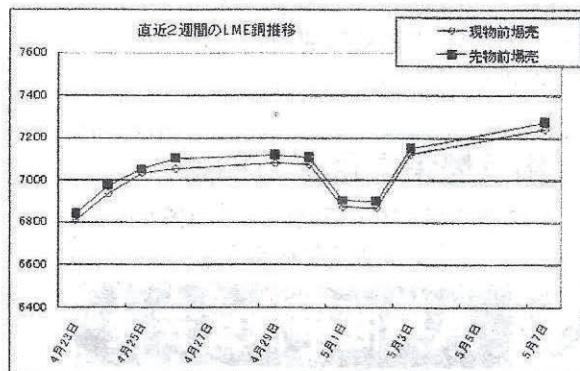
LMEアルミ合金は19.5ドル高の1,750ドル、北米特殊アルミ合金は11.5ドル高の1,790ドルとなつた。

ニッケルは下落。1万5千割れ水準

LMEニッケル相場は65ドル安の1万4,950ドルと下落。1万5千ドル割れ水準で推移した。

KLTM錫は26.2セント続落**採算値は2万円安**

KLTM錫は前日相場と比べ26.2セント安の60.741Mドルと続落。USドルは150ドル安の2万400ドルとなり出来高は40トン。Mドル/USドルレート=2.9775とTTSレート99.90円で換算した採算値は2万円安の204万3,000円、諸掛込みの採算値も2万円安の220万3,000円となつた。

**橋本健一郎氏の4月アルミスクラップレポート及び5月見通し**

■概況: 前半は雇用統計の非農業雇用者数減少や失業保険申請件数減少に伴う米金融緩和期待や日銀金融政策決定会合での追加的金融緩和など好材料もあったが3月のISM 非製造業景況感指数の悪化や日米株の好調に伴う資金流出を嫌気して、1821ドル(現物後場買い)と前月最終価格から約64ドル下落しての前半締めとなつた。

後半は米株式の史上最高値更新、日経の年初来高値更新、2月の米住宅価格指数は前月比0.7%上昇、3月の米新築住宅販売件数は前月比1.5%増加など好材料もでたが、中国の1~3月期のGDPが+7.7%と予測の8%を下回った事、それに伴い米格付け会社ムーディーズによる同国債の一段階引き下げ、中、独、米のPMI(製造業指数)の悪化などマイナス材料の中1800ドル前半まで下落。ただGW明けの5月7日現在、ECBの利下げ観測や非農業雇用者数が16.5万人と予測の14万人から改善したことを感じ、LME(現

物後場)1846ドルと前半締めから25ドル上昇してのスタートとなつた。

■前月の経済指標: 日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比-16.4%の82万3145台であった。日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比+2%の21万3165台。国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比+7.3%の7万1456戸であった。

次に貿易指標を見ると、財務省貿易統計によれ

	1月	2月	3月
生産台数	76万4054台	86万2194台	82万3145台
前年比	-9.9%	-15.1%	-16.4%
2月	3月	4月	
販売台数	29万2453台	42万672台	21万3165台
前年比	-12.2%	-15.6%	+2%
1月	2月	3月	
新設住宅着工数	6万9289戸	6万8969戸	7万1456戸
前年比	+5%	+3%	+7.3%

ば輸出はアルミ新地金が前月比+28%の249トン、2次合金が-42.2%の959トン、スクラップが+7.2%の1万3782トン。輸入は新地金が前年比-20.6%の9万5210トン、2次合金が-35.8%の6万568トン、スクラップが-43.3%の730トン、合金スクラップは-20.1%の3054トン。

また前月の国内指標を見ると、日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比-1.7%の17万75トン。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は前年比+1%の6万9943トンであった。

■見通し:4月は米経済後退懸念に足を引っ張られた月となった。FOMC議事録で金融緩和の終了時期について2013年を想定しているとの報道やADP雇用統計の悪化、ボストンマラソン爆破事件によるセンチメントの悪化から。直近の米週間失業保険申請件数の減少、4月の雇用統計で失業率が7.5%と前回より0.1%改善したことから下げ幅は抑えられたものの今後の米経済指標に注目。

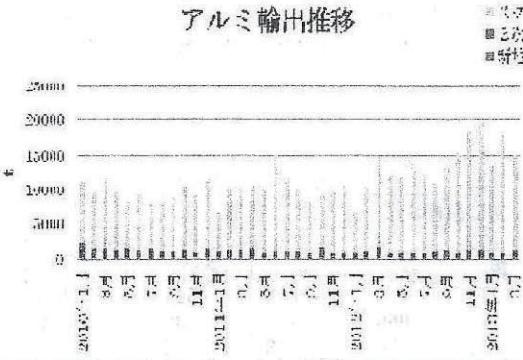
自動車生産は前年比-16.4%2桁悪化の7カ月連続マイナス。輸出向け、国内共に二桁悪化。販売の方は前年比+2%とようやく回復の兆しか。新設住宅着工戸数は先月に続き7カ月連続増加前年比+7%（前月比（季節調整済み）-4.3%）の7万1456戸。唯一堅調な住宅関連。消費税アップ前の駆け込みなど今後の動向に注目。自動車関連のアルミ2次合金生産は前年比+1%と7カ月ぶりのプラス。大幅円安に伴う海外玉からのシフトや自動車販売台数の改善からの注文増の見解。その他、圧延・押出品生産数は前年比-1.7%と悪化。圧延に関しては自動車向けがエコカー減税の反動や中国・アジアへの輸出減

から-14%となった。輸出は新地金が前年比+28%の249トン次合金が-42.2%の959トンスクラップが+7.2%の1万3782トン。国内需要が旺盛な2次合金以外は円安を背景に輸出増との見解。輸入は新地金が前年比-20.6%の9万5210トン、2次合金は-35.8%の6万568トン、スクラップは-43.3%の730トン、合金スクラップは-20.1%の3054トン。新地金は携帯電話や電気関連の板・条需要の不振や円安からの割高感のため輸入塊は減少、前月に続きスクラップは輸入塊の割高感から一部、安いスクラップへ原料シフトしたもの依然として韓国への輸出が好調なことから輸出増加との見解。

引き続き原料需給には供給不足。新年度入りし、予測通りアベノミクスと思われる効果が出だした。新設住宅着工戸数が前年比+7%と7カ月連続増加。3月の自動車生産こそさえなかったが、4月の自動車販売台数が+2%と増加。今後は増税前の駆け込み需要に対応するため、国内2次合金需要が増加するためスクラップ需要も増加するとの予測。LME価格に関してやはり米中の経済指標に一喜一憂。中国の1~3月のGDPやPMI指標の低迷や米雇用指標が共に好調である可能性は現状では低く、また過剰流動性資金が現在は株、国債、通貨に流れしておりコモディティ（商品）への流入がみられないことから上値は3月最高値付近の2000ドル。下値は銅価格の急落にも連れず1800台にとどまった事から、下値固め終わったとの見解から値1800ドル。スクラップ価格についてはLME価格がレンジ内の動きではあるが円安の長期化や国内需要の増加から据え置きから+5円程度の値上げがあるとの予測。

	1月	2月	3月
新地金	13万1664t	10万3596t	9万5210t
前年比	-9.2%	-16.5%	-20.6%
二次合金	9万1268t	5万5269t	6万568t
前年比	-16%	-38.3%	-35.8%
スクラップ	1151t	723t	730t
前年比	+86.5%	-20.7%	-43.3%
合金スクラップ	3296t	2964t	3054t
前年比	-43.4%	-3.9%	-20.1%

アルミ輸出推移



アルミ輸入推移

